



希望の未来へ！あなたと市政のかけ橋に すずらんジャーナル

船橋市議会議員

はしもと 和子

2026年 第80号

市民相談はお気軽に

090-5574-9079

発行 橋本 和子

学習端末用に「コドマモfor school」の導入

子ども達は、SNSやオンラインゲームで知り合い、いとも簡単に、自身の裸や下着姿など不適切な画像を送信、ゲーム依存、誹謗中傷、個人情報流出など知らないうちに、拡散されているなど、被害が拡大しています。



学習用タブレット端末で動画や写真を撮ることができるので、盗撮や、ふざけて撮った画像でトラブルになっていることもあります。子ども自身が被害者にも加害者にもなり得る事件も起こっています。いじめや性被害など、オンライン上のトラブルを未然に防ぐことを目的とし、ICT環境の安全性を高めることが、子ども達の未来を守る第一歩です。

本市においても、スマートフォンや学習用端末でのトラブルは起きている。特に不適切な画像を用いての被害については、深刻なものと認識している。

学校においては、情報モラル教育の年間指導計画を立て、発達段階や学校の実情に合わせた指導を行っている。スクールロイヤーや企業等による出張授業で、インターネットの正しい利用の仕方やSNSに潜む危険等を学ぶなど、未然防止に努めている。



親子の対策も必要です。例えば、スマートフォンに無料でインストールできるアプリ「コドマモ」子ども達の被害を防ぐために産官学連携で開発されたもので、子どもが不適切な写真を撮影した時に、AIが自動的に検知し、子どもに注意喚起をし、同時に親にも通知が届きます。

サーバーを介さない為、個人情報等が洩れる心配はありません。このアプリを、学習端末用に進化させたアプリが「コドマモfor School」です。AIが不適切な画像や動画を検知し、利用者に警告・管理者に通知する機能を備え、教育現場での実証実験を経て、開発したアプリの導入を求めました。



敬老会から考えてみよう

9月の第3月曜日は敬老の日で、多年にわたり社会に尽くしてきた高齢の方に感謝と長寿を祝う日です。コロナを経て、敬老会の持ち方が大きく変化しました。

毎年皆に会えるのが楽しみ

こんな時でないと化粧もしないよ

久しぶりだけど、元気だったかい

一人になってしまったが、こうやって声をかけてもらい嬉しい



「家庭菜園を始めたのですが、家庭菜園をされている方がいましたら、いろいろと、教えて下さい。」と挨拶をすると、生き生きとして、肥料のやり方など教えてくれました。採れた野菜は、ご近所に配ったりしながら、とても楽しそうに過ごしているのが、目に浮かんできました。こうやって話をしたり、声をかけるなど、とても大切な行事だと感じています。

敬老会の多くは、町会・自治会単位で開催されていますが、中には、地区連で開催しているところもあります。しかし、昨今では、町会・自治会に加入していない人が多くなりました。役員とかできないので、やめるとか、新しい住宅街では、町会・自治会がなく、新たに立ち上げる所は、そう多くありません。このような中、80歳以上の方がいるにも関わらず、敬老会に参加できない人もいます。

市としては、敬老行事を開催することにより、地域の皆様が顔を合わせ、交流し、長寿を祝う気持ちを伝えあう場としてほしい。



敬老会を開催することで、地域の人が顔を合わせ、交流する場となっていることは、間違いないと思います。現在の形式をすべて変えようとするものではありません。ただ、同じ市内に住んでいて、敬老会への誘いがないというのは、大変心苦しく感じています。88歳と100歳の方には、お祝い金が振り込まれます。

80歳以上で、各会場まで、参加できる人には、ぜひ、足を運んでもらいたい。そんな気持ちから、子ども達や若い人も巻き込み、地域の高齢者に感謝を伝えるには、どうしたらいいのか。皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

コミュニティ・スクールでの取り組み

令和6年度から市内全校で「コミュニティ・スクール」がスタートしています。全ての学校に「学校運営協議会」が設置され、地域住民・保護者・教職員が協働して、学校運営に関して話し合いが行われています。また、地域学校協働活動推進員、コーディネーターと言いますが、各校に配置され、地域と学校をつなぐ役割を担い、活動の企画や調整を支援しています。そして、読み聞かせや花の手入れなどボランティアで活動する、地域学校協働活動が行われています。「地域と共にある学校づくり」の取り組みで、地域との交流ができている事業など、具体的に教えてください。

地域との連携・交流が行われている事例として、防災学習の一環として、子ども達が地域の方々といっしょに、避難所運営ゲームや避難所設営の体験。学習支援として、職業講話の講師やミシンを使用する授業の補助に入ってもらっている。また、福祉まつりなどの地域行事に子ども達が参加したり、学校の環境整備やPTAなどが主となって行う行事に地域の方々が参加するなど、お互いに連携・交流を図っている。



地域学校協働活動で子ども達のために、活動している方がいるわけですから、例えば、「地域とつながる敬老の日交流会」とか「子どもと高齢者がふれあい、学び合う地域協働活動」みたいにして、高齢者と子ども達が交流することで、思いやりや感謝、優しさなどを学び、高齢者にとっては、地域とのつながりを感じてもらい、安心感を得、孤独にならないようにすることが大切だと思います。

子ども達の参加もあれば、高齢者とふれあう、いい機会になります。また、9月はまだ暑い日が続きます。各学校の体育館には、エアコンが設置されているので、安心して開催ができます。また、学校を活用することは、普段から行きなれている子ども達は安心して参加ができます。また、学校は避難所にもなっていますので、学校を拠点に、世代や地域を超えた交流が広がります。

岡崎市の「ひなんさんぽ」高齢者や障がいのある方などまずは家から外に出てもらう事が重要で、おさんぽ気分で避難所まで歩きながらおしゃべりをしたり、危険な場所はないかなど確認。いざと言う時の避難所がどのような場所なのか確認もできます。車椅子が必要なら、車椅子を押してあげる。足が痛いとか、お散歩も無理な場合でも、家の前に出てくるだけでもいいのです。このように普段から、地域の人と顔を合わせておくことが重要です。



社会福祉協議会(社協)での取り組み

八千代市では、高齢者とのつながりや地域福祉の推進を目的とし、地区社協が主体となって、敬老会を開催しており、地域密着型の福祉活動として定着しています。また、赤い羽根協働募金の助成を活用しているケースもあり世代間交流事業として位置づけられています。市社協が全体を統括し、地区社協が実働部隊として活動しています。敬老会は、単なるイベントではなく、孤立防止・見守り・地域づくりの一環として、位置づけられています。

船橋市では、24ある地区社協全てに、生活支援コーディネーターが配置されていますが、どのような活動をしているのか伺います。



市では、高齢化が進む中、多様な主体による多様な生活支援・介護予防サービスの提供体制を構築し、地域の支え合いの体制づくりを推進していくことを目的に、船橋市社会福祉協議会に委託し、生活支援コーディネーターを各1名配置し、日々、地域住民や事業者などの多様な主体との対話を通じ、地域資源や支援ニーズ等の情報を収集し、これらをマッチングさせるコーディネートや、ボランティア等の担い手養成などの活動を行っている。

地域住民が抱える複雑化・複合化した支援は、重層的支援体制整備事業の中で多くの担当課が関わってくれていますが、公的サービスに対応できない生活課題も増えています。制度の狭間で困っている人を、いかに探し出し、支援をするのかが課題です。社協を中心に、孤立防止・見守り地域づくりの一環として、敬老会を開催するのはどうでしょうか。

高齢者の孤独・孤立を巡っては、単身世帯の増加に伴い、今後はリスクを抱える人が増えると懸念されています。今まででは、退職後の男性が陥りやすい課題だとされてきましたが、働く女性が増え、男女共に地域とのつながりを感じることで、安心して暮らせる環境づくりにつながります。

はしもと 和子 090-5574-9079

ホームページ hashimoto-kazuko.jp

市政に関するご意見・ご要望をお寄せください。

S.35年 長野県軽井沢町生まれ 小諸商業高等学校卒業

八十二銀行入行 S.57年より船橋市在住 H.27年より保護司

